

## 第11期 第1回 府中市美術館運営協議会会議録

- 1 会議名 第11期 第1回 府中市美術館運営協議会
- 2 開催日時 令和3年1月10日（日） 午後2時から
- 3 開催場所 府中市美術館講座室
- 4 出席者 (1) 委員（敬称略・順不同）  
谷矢、橋本、持田、隠岐、佐伯、高尾、金田、吉田、清水、  
瑞慶覧  
(2) 事務局  
藪野館長、相馬副館長、鎌田副館長補佐、尾崎管理係長、  
志賀学芸主任、武居教育普及担当主査ほか
- 5 議 題 (1) 府中市美術館運営協議会について  
(2) 府中市美術館について  
(3) 諮問事項「府中市美術館の望ましい姿」について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 発言内容 以下、□は各委員の発言、■は事務局

■本日は、皆様ご多忙のところ、また緊急事態宣言発令の中、府中市美術館運営協議会にご出席いただき、ありがとうございます。お時間になりましたので、会議を始めさせていただきます。

私は、府中市美術館 副館長補佐 兼 学芸係長の鎌田と申します。議題に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料のご確認をさせていただきます。事前に郵送させていただいたものもありますが、未着などの不備がございましたら、お申し出ください。

(次第、資料1～9 確認)

■本日は、第11期 府中市美術館運営協議会の初回の会合となります。お配りしております次第に沿って進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、緊急事態宣言下であることから、本日の会合は、できるだけ速やかに、遅くとも午後4時までには終了させていただきます。会の円滑な進行に、どうぞご協力ください。

次第2、委嘱状の伝達に移らせていただきます。本来であれば当館館長から、お一人ずつにお渡しするところがございますが、お時間の関係もございますので、机上に置かせていただいております。ご確認くださいませよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第3、府中市美術館館長の藪野健より、ご挨拶を申し上げます。

(館長挨拶)

■次第4、委員および事務局の自己紹介をさせていただきます。はじめに、委員の皆様から一言ずつお願いいたします。事務局から見て左手手前の委員より、時計回りをお願いいたします。

(各委員自己紹介)

■ありがとうございました。つづいて、事務局より自己紹介をさせていただきます。

(事務局自己紹介)

■次第5、正副会長の選出に移らせていただきます。府中市美術館条例 施行規則 第14条の3にありますように、本運営協議会の正副会長は、委員の互選で決めることになっております。どなたか、自薦・推薦はございませんでしょうか。

(会長、副会長 選出)

■委員の皆様、ご異議ありませんでしょうか。

(異議なし)

■ありがとうございます。谷矢会長、橋本副会長、お手数ですが、席のご移動をお願いします。それではご挨拶をお願いいたします。

(会長、副会長挨拶)

■ありがとうございます。次第6、諮問事項の伝達です。第11期 府中市美術館運営協議会への諮問事項を、藪野館長より谷矢会長に、伝達させていただきます。

■（「府中市美術館の運営について(諮問)」文書 読み上げ）

■本諮問事項の趣旨や背景については、後程、議題3のなかで、事務局より詳しく説明させていただきます。

なお、本日の出席状況でございますが、10名の委員の皆様に出席いただいております。過半数を超えておりますので、会議が成立していることを、ご報告いたします。

では、ここからは会長に議事をお願いいたします。

□それでは、これから次第に沿いまして会議を始めたいと思います。まず、議題の1「府中市美術館運営協議会について」。

本運営協議会の位置づけや今後のスケジュールについて、事務局より、説明をお願いいたします。

■（位置づけ・目的・委員構成・スケジュールについて資料読み上げ）

- ・資料1 委員名簿
- ・資料2 関係法規
- ・資料3 運営協議会 予定

□事務局から説明がありました。本運営協議会について、委員の皆様から、何かご質問はございますか。

それでは続いて、議題の2「府中市美術館について」。府中市美術館の運営や事業について、事務局より、説明をお願いいたします。

■（設置目的・基本的性格・現状と課題、入館状況の推移・歳入歳出状況の推移、作品収集活動、展覧会活動の特徴、教育普及活動の特徴について説明）

- ・資料4 要覧
- ・資料5 年間スケジュール
- ・資料7 入館状況の推移
- ・資料8 歳入歳出事項別状況

■続いて、府中市美術館の施設をご見学いただきます。今回は、美術館1階の一般利用区画、および収蔵設備をご覧ください。2階の展示室につきましては、お手元に現在開催中の企画展の招待券をお配りしておりますので、会議後にあらためてご覧いただければと存じます。

お手元に、要覧の8頁をご用意いただいたほうが、わかりやすいかと思えます。それでは、お手数ですが、ご移動をお願いいたします。

(喫茶室 → 創作室 → 公開制作室 → 市民ギャラリー → 美術図書室 → 収蔵庫 前室、2室 → 講座室に戻る)

皆様ありがとうございました。以上で、府中市美術館についての説明を終わらせていただきます。

□一通り説明がありましたが、この機会に予算から色々質問がある方は、せつかくの機会ですから、是非とも質問していただければと思います。

細かいところで、よくわからなかったところですが、江戸絵画展は年度をまたがっている両方合わせた数字ということですか。

■合わせると45,731人 ということですか。

□コロナの影響があったという事ですか。

■はい、そうです。

■春の江戸絵画展については、毎年、年度またぎになりますので、中身については合計するようにしております。

□美術品購入費については、2億円あって、あと100万円ずつあるということですか。

■毎年100万円ずつ積み立て金として、予算で補填しておりますが、いつかなくなるでしょう。

□積立金ですか。利子はつきますか。

■つきます。それは市の一般財源として吸収されていきます。

□前回、6点で1,500万円買ったという説明がありましたが、残っている額が1億5,000万。計算が合わないですね。

■その前に30年度に3,000万円余りの購入費がかかっておりまして、これが1回目の購入で、2回目が今年度予算に計上している1,500万円あまり、差し引いて1億5,500万円余りが差額としてあります。

□他に質問ありますか。

□基金は、今後とも続けていかなければならない事だ、と思っております。

□そうですね。

□西洋美術館などですと、「新購入作品はこうです」と、パンフレットなどが来たりしているのですが、府中市民全員に知らせることは難しいとしても、「今年はこれらを買いました」というのを画像として、サイトにアップするとか、というようなことをなさったら、良からうかと思えます。

別に値段まで言う必要はないですね。お披露目として飾れなかったものも、お知らせとして、知らせていただいた方が良いと思えます。

■新規購入作品のお披露目については、購入の次の年度ぐらいの展覧会でお披露目したり、場合によっては、「美術館だより」の誌面で紹介を行ったりしております。

ただ今、委員からご指摘があった通り、独立して何かということは、なかなかやったり、やらなかったりという状態ですので、機会がありましたら、やっていけたらと思っております。

□例えば、先ほど収蔵庫で全部は飾れないとおっしゃっていましたが、お買いになったとしても、小さなデッサンみたいなものなどですと、飾れないですけれども、絵画っぽいものだと、「これを買いました」と皆さんに、お見せする事は可能な、と思えます。

或いは今まで館に入ってきた作品を、できればサイトアップして、何年度譲渡作品とか出てくる、そういう風にして頂き、実は「府中には、これがあるんだ」と。これは研究してる人にとっては、すごく重要なことであるんですが、是非そういったサイトアップなどを考えて頂ければと思います。

■美術館のホームページで作品のデータベースの公開につきましては、以前からこの

協議会において、ご意見いただきまして、美術館としても取り組まなければいけないと思ひ、長期的、中期的なものというのが美術館の考えです。

□人数はチケットで把握しているということですが、公開制作や市民ギャラリーなどの人数カウントはどうですか。

■企画展の入場者数は、観覧券を集計して、市民ギャラリーは、美術館が貸している運営の方の報告に基づいて集計して、公開制作につきましては、非常に詳しいことが分かりにくいのですが、美術館には自動集計装置というものがあまして、自動ドアを入るとカウントされる仕組みになっておりまして、その数値の1/2を公開制作の参加者として、計算させて頂いております。入った人の半分は見ていただけるだろう、という判断です。

□そうしますと、カフェテリアの方から入った人の1/2も計算されているって事ですね。

■そうです。カフェテリアの方にも自動集計装置が一個ありまして、それと正面玄関でもカウントしておりまして、それらを合わせたものを1/2にしたものを、公開制作の参加人数としております。

□今、収蔵庫を見せていただきましたが、これまでも作品の収蔵をお断りすることが繰り返されてきたと思います。スペースの問題かと思ひます。

美術館としては、収蔵庫のスペースは十分だとお考えでしょうか。

■簡単に今のスペースを見ていただければ、収蔵することだけはできるだろう、と皆さんお考えになるかもしれませんが、ところが美術館における収蔵というのは、そこに仕舞っとけば終わりということではなくて、それを安全に取り出せるだけの然るべき空間が必要になります。

収納効率を高める為には、今の状態でも、かなりギリギリになっています。物理的に入れることができて、取り扱いまで考えると、さらに何らかの措置が必要となります。そのために措置の方法としては、いま天井の部分が空いているので、棚を高くして高層化していくこと。

おそらく皆さんのご自宅で本を収納する時のことを考えていただければ、ご想像いただけるか、と思ひます。本棚を作って、最初はきれいに並べていくんですけども、それが今度、本棚がとりあえず一杯になると、二段重ねに、前に積み上げていく。

そこまでいって、さらに本棚を設置できなくなると、床に置いていく。床に置いてくと、今度はその部屋に入りづらくなってきて、本を探しづらくなる。

今の美術館の状態は、どんな感じかと言うと、今の例えで言うと、まだ本棚を増やすスペースはある。ですから収蔵自体は何らかの措置をしていけば可能です。

ただ、いつまでも続くとは考えられないので、そろそろ何らかの手当をしていかないと、安全な収納、安全な保管、安全な取り扱いは難しくなってきたな、と考えております。

■今、補佐から話がありました通り、再整備をして行けば、まだ収蔵能力は確保できると思っております。ただ、これからずっとか、という、やはり限度がありますので、早い段階から考えております。

■それでは、議題の3「諮問事項について」。事務局より、説明をお願いいたします。

今回の答申事項を設定させていただいた背景は、二つございます。一つ目は、前期第10期 府中市美術館運営協議会の成果を生かしていくこと。

二つ目は、今後の府中市の文化スポーツ施設の整備改修計画に対応していくことです。

まず一つ目の点ですが、平成30年9月から令和2年8月にかけて開催された第10回 府中市美術館運営協議会では、諮問事項「府中市美術館 第2期(2020～2039年)の展望」について話し合い、お手元の答申書にまとめていただきました。

この答申書の末尾では、府中市美術館がこれまで20年間にわたって充実した活動を展開してきたひとつの要因として、公立直営館であったことが指摘され、今後この体制を維持していくことが望ましいとご指摘いただきました。

その上で、府中市の設置・運営する美術館として、すべての市民に親しまれ、誇りに思われ、さらには府中市の文化的シンボルとなるように、より一層の活動の充実を図るべきとの、ご意見をいただきました。

これらの点は、府中市美術館の開館以来の運営方針とも合致しており、大きな後押しをいただいたものと考えております。

今回の第11期の答申では、前期の議論の成果を踏まえながら、さらに議論を深めていただきたいと考えております。

続いて二つ目の点ですが、府中市内には、美術館をはじめ、博物館・図書館・生涯学習センター・劇場など数多くの文化施設が整備されております。しかし各施設の老朽化は徐々に進行しており、今後、その改修や再整備には多くの経費が必要となることが予想されています。

そのような中で、特に財政面からは、廃止や統合、規模の縮小といった施設の見直し、あるいは指定管理者制度の導入や経費の圧縮といった事業の見直

しも、議論されています。

これらに対する府中市美術館としての意見ですが、これまで当館は20年間にわたる活動を通して、広く市民に利用され好意的に受け止められているとともに、全国的な観点から見ても個性的な活動を展開する公立美術館として高く評価をされていると自負しております。

そしてこれらの活動が可能であった大きな要因として、当館が公立直営館という運営体制を維持してきたこと、そのことによって府中市のもろもろの政策と緊密な連携を取りながら事業展開するとともに、安定した運営を継続できてきたことが、挙げられると考えております。そして今後も引き続き、現在の運営体制や事業規模を継続し、さらには発展させていく必要があると考えております。

運営協議会の中では、こうした状況を踏まえたうえで、府中市美術館の望ましい運営体制や事業内容について、ご意見をおまとめいただければと考えております。

答申事項についての本格的な意見交換は、本年8月に予定している第2回の会合で行っていただくことになろうかと思っております。それまでの約半年間に、あらためて府中市美術館の活動をご確認いただき、それぞれのご見解をお持ちよりいただければと考えております。

以上で、事務局からの説明を終わらせていただきます。

■事務局の説明が終わりました。ここまでのところで、委員の皆様から、何かご質問はございますか。

□そうしますと、新しいスペースの確保について検討を、始めていらっしゃいますでしょうか。

■具体的には 作品収集の傾向も開館から少し変わってきてまして、大型作品もだいぶ多くなってきました。そういったことで、これからの見通しの計画から先に入って、それから実質の設計に入っていかなければいけないかな、と思っております。

□いずれ老朽化してきますし、収蔵庫もなくなってきましたし、これからの美術館の将来をどうするかという話になると思っております。

■今、話がありましたが、取り出しというケアの部分ですが、今回ご案内できなかった、地下に空調室がございます。

大型ボイラーですとか、極端に言えば機関車が下で動いているような感じなんです



けれども、そちらの方も、やはり、どの美術館も30年経ちますと、老朽化して、全部取り替えという形になります。

現在20年を迎えておりまして、24時間動いておりますけれど、そちらの方を優先してケアを進めていきませんと、良質な空調環境は保てないので、冒頭ご指摘がありました、施設の老朽化の中、作品保全の機械設備の更新が大きな課題となっております。

□という事が諮問の中身という事ですね。つまりここまでの美術館の運営について、市直営の美術館ですけど、それを指定管理とか第3セクターとか、そういう話は、ほとんど出ていない。

つまり、ずうっと今の府中市美術館のままでいいのかな、と思っていましたが、今、お話を伺うと、こういう経済状況などもありますし、世田谷美術館なども指定管理者制度で、つまり区の職員ではなくても、良いとか悪いかでなく、悪いとこだと儲け主義に走るのではないかと、とかいろいろ言われて、本来の良い美術館であるところがダメになる。

できたら、今のまま直営で、良い美術館になったらいいかな、というニアンスを受けたんですけど。皆さんのご意見があると思いますから、今日は時間がないので次回議論してもらいたい、と思います。

□それでは、本日は初回の会合ということでもありますので、委員お一人おひとりから一言ずつ、現時点でのご見解やご質問などをいただきたいと思います。府中市美術館について、今回の諮問事項について、本日の感想についてなど、忌憚なくご発言ください。まずは、副会長、いかがですか？

□何と言うか、よく分かり過ぎます。実績があつて、今の府中市美術館があるとすれば、我々もそこを考えていくというのがいいかな、と思います。

我々は指定管理者といっても区が100%といった公益財団法人です。今のところ、公の制約が全く効いていないのです。しかも、劇場と美術館と施設を丸ごと一括ですから。通常ですと施設ごと、ということになりますけども。

ですから府中についても、後で質問しようと思っておりますが、文化振興の施策方針みたいのがあつて、それに沿って行っていらっしゃるイメージと思うのですが、我々の公益財団法人は、区の第何期施策みたいなものが基本的にありますけれども、どこにどういった形ですり合わせてやっていくか、といったことを考えながらやっています。

こちらの状況は全く分からないけれど、同じ状況で、色々な所から探って行ってきたいと思います。

□はい、私は、中学校の立場で 連携をさせていただいています。ただ今年度についてはコロナ禍によって、なかなか 鑑賞が困難な状況にありますけれども、公立ということ

で府中市の場合は 非常に進んではいますが、いま新しい学習指導要領が、中学校は来年度4月から全面実施になります。

その中で、鑑賞に力を入れている部分もありますが、美術館との連携はクローズアップされていて、府中市では美術館があるので、すごく身近に感じているかな、と思います。

じゃあ、その先どうやって進めていくか、という課題が出てくると思うのですが、やはり生で見させてあげたい、という思いが我々にはあるのですが、生というのが一番有効的であると思いますので、ただこのような状況を踏まえると、ネットワークを通じた興味や関心を高める、というところも必要になってくるかと思います。

それから文科省が進めているように、GIGAスクール構想が、4月から小学校から中学校なんですけれど、児童に一つノートパソコンが来ますので、そういったものを美術の授業で利用してみようか、という発想なども取り入れられて、より興味が備わっていくのかな、と思っております。今後の連携も宜しく願いいたします。

□小学校に関しては、今後とも、ぜひ続けて言っていただければと思います。さっき話があったかと思いますが、地下の設備が30年、なるべくそういった施設は早めに修理をしたり、入れ替えたりした方がいいのではないのかな、と思います。

たまたま関連した仕事とか、やっていますので、気になったというのもあるのですが、また地下にあるっていうのが心配になります。浸水とかありますし、実際、多摩川がそうなんですけど、総合体育館は浸水で今も使えない状態です。

電気設備等は1階より上という方が良いのではないかと、というのが私個人の意見です。また一昨年の台風被害とかありましたけれど、この辺はなかったと思いますけれど、その辺も含めて設備の維持を図っていったらな、と思います。

□私のところは多摩六都科学館なんですけれど、運営しているのは組合設置者で、指定管理者制で運営されていて、第5期のうち今2期目なんですけど、7年間の内の約4年が終わるとい形になっております。

運営しているのはノムラ工芸社というところなのですが、指定管理になって、よかったことは、やはり、すごい勢いが付いて、民間のノウハウがすごく入ってきて、それと、より外へ、地域へ出て行き、地域とつながる、ということを考えるようになりました。

私達にも広域行政権というものがありまして、もしも発表するとして、一緒にやっという会がありまして、指針は何年分が出されます。その方針に沿って、科学館も、何をやって行くか、と検討してやっていくのです。

その中で社会的に大きく求められている社会課題について、どう答えていくかについても、今後の活動ですとか、考えながらやっていきます。

科学のおもしろさですとか、技術のアート作品の素晴らしさを伝えるですとか、見て

もらうとか、基本的なことだけでなく、社会的課題がどうやって届くのか、というところにごく興味関心がありまして、そこができることが、さらにミュージアムが、その地域で必要とされていて、統廃合の感じはありますが、いや美術は絶対必要という根拠に繋がっていくのかな、と思います。

なので次回までに、私が調べたい、教えていただきたいのは、美術館がどんなネットワークを持っていて、どのようなところと繋がっているのか、もうちょっと知りたいな、と。そこから更に可能性が広がると考えています。

□私は府中市美術館とは、自分の制作の側面からずうっと関わらせて頂いてきたので、別の方向から話を伺って、とても興味深かったのですが、内側の動きがだいぶ分かりました。

知ってしまうと、今後は、我が儘が言いにくいな、と思うのですが、むしろそういったことが分かってきたことで、直営で運営している美術館として、例えば企画側の考えがダイレクトに通じ、ワイドに活性化する方が、プログラムなど製作者側の方から提案したりできるのかな、ということを感じた次第です。

なので、より活性化してくような内容を何か、次回までに大学の学生等との業務もありますので、考えていきたいと今思っております。

□美術館の裏の裏まで見せていただきまして、また美術館に対する考え方も少し変わってくるかな、と思います。

いろいろスタッフの方がご苦労されて、展覧会を企画されている。ここ何回か見せていただいています。どんどん変わっていくな、と思います。やっぱり時代は変わっていくんだろうな、と思います。

変わっていくときに、やはり府中市の美術館の基本的性格と言うのが、最初に出て参りましたので、その辺のことをもう一度見直してみる、ということが必要であると思います。

新しいものばかりを追いかけるというよりも、府中市の美術館が、どのようにして生まれたのか、そして、その中で20年間、どのような工夫されてきたか、それをもう一度、一瞬でも振り返ってみて頂けると、更に新しい府中市美術館が出てくるのではないかと、思います。

私は常々思うのですが、府中市美術館は、商業ベースに取り込まれた美術館ではないな、と感じがします。多分そういうことを市民に提供したい、と言うことではなかったかと思っています。

そういうことで、ここ20年経ちましたので、是非「市民に府中市美術館って、どんなところだろう。どんな風にしてほしいと思う？」という問いかけがあるといいんじゃないか、と思います。

私みたいに20何年間か府中市美術館を知っている者と、全く知らず、新しく最近、

府中に来た方もいらっしゃるかと思います。そういうギャップを埋めるところから、新しい府中市美術館の顔が出てくるのではないかと、思います。私もこれから、考えていきたいと、思います。

□市民の声をという話ですが、そういうシステムはあるのですか。

■アンケートがあります。

□今日から開催される予定だった、北多摩地区中学生の展覧会が、緊急事態宣言により、多分、中止になってしまったのではないかと、思いますけれども、私の小中学校時代、中学の美術の時間をとても頑張ると、府中市美術館に飾ってもらえるというのが、すごい楽しみで目標としてしていました。

今の中学生達もそれを目標に頑張っていた子もいただろうなと思うと、この中学校展覧会は、市民ギャラリーの中では、すごく賑わっていて自分の子供の作品を見れるというのは、すごく嬉しいと思います。

やはり家族で、みんなで見に来ます。うちなんかは、さっと見て、さっと帰るような感じなんですけど、本当に天井ギリギリまで、子供たちの作品が貼り出されていて、いつもあの展示は熱気があって、私は知っている子の展示がなくても見に行っています。今年なかったのは残念でした。

あと人数のカウントが、しっかりできたらな、と思いました。

□今のお話もそうなんですけど、これからは人が集めにくくなっている訳ですよ。ですけど展覧会が中止になりますと、近代美術館などですと、開店休業状態になって、一応絵を飾っているけど、お客さんがいない。そういう時に、その作品を学芸員さんが、中をビデオで撮って、2、3言コメントするような動画を配信していたんですね。

西洋美術館も、そうでした。美術展はやるけれど、悪いけれど、絵の方はオンラインで見ていただく、みたいなことも。飾る方の手間は同じ事なんですけれど。だから今の環境では、ご覧にならないけれどもでも、飾っているところは、こんな風になるんだよ、というのを見れるような何か、こういう発信ができるといいなと思います。

□ホームページですとか？

□はい。それに公開制作ですとか、今ズームで開示するのをやっていますが、自分のスマホ、あるいはパソコン画面に発表者の色々な映像とか出てきますので、家にいながら研究発表が聞けるみたいな、そういう環境がもう一般になりつつあります。

美術館の運営も、やはりそう言ったものを視野に入れて、それがイージーに、例えば

参加したい、という者のアドレスとかを登録すると、その時間には接続できて見られるとか、話し合いができるとか、公開制作を見ながら、自分も作って見られるとか、何かそういったことが、これから先、必要じゃないかな、と思います。

仕方ないけど、そういう遠隔でも参加できる機器を持たない人は、来ざるを得ないから、そうするとしても、人数は減るわけだから、登録制で、どうしても行きたい人は、時間で登録していただく。何かそういう実態になるのではないか、と思います。

できたら、そういった時代が来たらいいかな、と思いますけど、そういったことも必要かもしれないですね。

■現在、取り組んでいることについて、学芸員から説明させていただきます。

■配信事業に関しては、やはり昨年からのコロナの影響の中で、生で作品なり、ショップなりの体験をしてほしい、というのが一番ですが、それとのバランスを見ながら状況に応じて、配信オンラインでの体験も提供できるようなことを進めています。

一つは、ウェブサイト上で「オンラインで楽しむ府中市美術館」ということで、館長のエッセイを頻度はあまり上げられていませんが、配信したり、後は所蔵品の紹介をしたりとかしております。

もう一つは、教育普及事業で先に説明がありましたが、ワークショップをオンラインで配信するということを開始しております。

もう一つ公開制作についても、ライブで公開配信するということも行いましたし、それとつなげて、今回2階で開催しています企画展に関しましては、年明けに風景動画を配信したり、アーティスト出品作家のインタビューを配信したり、ということを行なっています。

ただ、やはり課題としては、府中市美術館の中に十分な配信設備が、LAシステムが公開制作のところまで通っていなかったりですか、あとはズームのお話もありましたが、組織としてきちんと使えるような状況ではなかったなので、手探りで設備面でもそうですし、人材の面でもまだまだの所があるので、そういう意味では課題がまだあるかな、と思います。

大分、長くなりましたが、最後に言い足りないことですか、ある方いらっしゃいますか。

無事、トイレが全て洋式化されて、混むけれど、女性は皆さん助かっているようです。

喫茶店も大変良くなりまして、メニューも良くなり、購入者も増えたのではないか、見

た感じよかった、と思っています。

あと中止になってしまった残念な展覧会もあります。代替の展覧会がありましたが、とても代替とは思えない素晴らしい底力のある展覧会でした。

閉館にせず、頑張っけて開いたことによって、多くの方が、私を含め心を落ち着ける場所として、大変ありがたく思っています。

□みなさん、ありがとうございます。この他に、追加でのご意見や質問はありませんか。特にないようでしたら、本日のところは、議題3については終了し、次回の会合で、より踏み込んだ意見交換を行いたいと思います。

それでは、議題の4「その他」。委員の皆様から、何かございますか。事務局の方からは何かありますか。

ないようでしたら、議題はこれで終了といたします。委員の皆様、お疲れさまでした。事務局にお戻しします。

■ありがとうございました。以上で、第11期府中市美術館運営協議会の第1回の会合を終了させていただきます。

なお、次回の会合ですが本年8月に開催を予定しています。日程の調整は改めてさせていただきますが、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、ありがとうございました。